

としまち研掲示板

△▼△としまち研 各部会の次回開催予定△▼△	
共同建替え部会	9月 25日(火)
コーポラティブ住宅部会	9月 25日(火)
団地・マンション再生部会	10月 24日(水)
福祉(人と暮らし)部会	9月 24日(月)
総務部会	
広報部会	10月 16日(火)

としまち研会員の方であれば誰でも部会に参加できますので、是非ご参加ください。

☆進行中のプロジェクトニュース☆

- ・奥澤コーポラティブハウス
12月に完成・引渡し予定。
4戸の参加者(入居希望者)の募集を行っています。どなたかお知り合いの方がいらっしゃいましたらご紹介ください。
- ・九段南コーポラティブハウスⅡ
参加者募集中。千代田区内でお住まいをお探しの方がおりましたら、事務局までご連絡ください。

△▼△まもなく募集開始!△▼△
世田谷区松原の羽根木公園の近くで、コーポラティブハウスを計画中です。
まもなく参加者募集開始予定です。お楽しみに。

△▼△夏の夕べの集い開催△▼△
8月21日(火)に開催された「夏の夕べの集い」は、事務局:五十嵐敦子さんの出産と育児のための約1年間の休暇の激励会と新事務局員の岩ヶ谷充さん、1年を目途に戻ってきます!佐藤しおりさんの歓迎会、そして第1回まちづくり法人国土交通大臣表彰「特別賞」受賞祝いと盛りだくさんの集いでした。
平日の午後5時からだったため、都合がつかない方も多かったのですが、五十嵐さんの1年を目途に帰ってくるという“宣言”もあり、有意義な夏の夕べの集いとなりました。



としまち研会員募集

としまち研では、活動に参加して下さる方(正会員)や活動を応援して下さる方(賛助会員)を募集しています。
詳しくはとしまち研のホームページをご覧ください。

まちづくりのご相談は事務局へ

○借入金があるが何か建替えの方法はあるか。
○お隣りも建替えを考えているようだが共同建替えは自分たちでは調整できない。
というような難しいご相談も検討します。
お気軽にご相談ください。

編集後記

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉がありますが、そろそろ涼しくなってくれないと、体がピシッとしません。さて、12月に引渡し予定の(仮称)奥澤コーポラティブハウスでは、現在、建物名称の選定を行っています。昨年末ごろから名称案の募集をしましたが、最終的には、驚きの102案。私だったら〇〇に投票しようかな...などと考えながら組合員の皆さんからの投票を楽しみに待っているところです。組合員の皆さんは、現在「産みの苦しみに」と言ったところでしょうか。次号、10周年を迎える60号目の「おいらのまち」で皆さんにお披露目できると思いますので、どうぞ楽しみに。(事務局 飛澤)

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町33 COMS HOUSE 2階
tel 03-5207-6277 fax 03-5294-7326
E-mail info@tmk-web.com ホームページ http://www.tmk-web.com/
皆さまからのご意見、ご感想をお待ちしております。

としまち研現在の会員数
正会員60人 賛助会員31人
編集発行人 比護彰彦
事務局担当 飛澤玲奈



としまち研会報 第59号

おいらのまち

2012.9

発行 NPO都市住宅とまちづくり研究会 理事会

新しい住まい・まちづくりのお手伝い

去る9月4日(火)午後7時から東松島市の矢本運動公園応急仮設住宅の東西の集会所で、約140名の被災者の皆さんが参加して、第4回大曲浜地区懇談会が行われ、ワークショップのお手伝いのため、としまち研東日本大震災復興支援委員会からも10名が参加しました。

地区懇談会ではグループ討議がワークショップ形式で行われ、テーマは、①8月下旬に行われた市主催の第3回地区別説明会についての感想や質問、②(仮称)矢本東地区移転先まちづくり整備協議会の設立にあたっての要望等、の2つ。としまち研のメンバーは準備がないまま、初めてのワークショップの進行役(ファシリテーター)を務めましたが、被災者の皆さんには「大勢のところで話すのと違って、気軽に意見を出せる。」「これまでの会合では説明と質疑・回答という形態だったが、このグループでの話し合いはとてもよい。」と好評でした。被災者の皆さんから、疑問に思っていること、住まいやまちづくりへの要望、まちづくり協議会に対する期待などが出され、今後の検討の方向性などもはっきりしてきました。

9月7日(金)には、30名が集まり、としまち研復興支援委員会が行われ、今後の対応方針を検討、そして9月12日(火)の東松島市との協議を経て、9月14日(金)緊急に復興支援小委員会を開催して、としまち研としての本格的な体制づくりに着手しました。



気軽に意見の出しあえる雰囲気



ワークショップのまとめの報告

被災者の「一日も早く恒久住宅に住みたい。」という切実な要望、9月4日に行われたワークショップでの「せっかく津波から生かされたのだから、豊かな人生を過ごせる場所に住みたい。」という皆さんの意見に象徴されるように、私たちの住まい・まちづくりの専門家集団としての支援もこの被災者の気持ちに沿うような厚みのある支援でありたいと思います。としまち研の復興支援の取り組みに参加して下さる方、大歓迎です。事務局までご連絡ください。(としまち研理事長 杉山昇)

おいらのひとりごと

『おいらのひとりごと』はとしまち研会員による、リレー形式のエッセイです。

『心を整える。』 としまち研事務局 岩ヶ谷充

新生活が始まり、早くも1ヶ月が経とうとしている。段ボールだらけの部屋を片付けている最中に発見し、片づけを忘れ読み返した一冊の本を紹介したいと思う。題名は「心を整える。-勝利をたぐり寄せるための56の習慣-」長谷部誠著である。

本書は題名の通り、サッカー日本代表のキャプテンとして、ドイツで戦う数少ない日本人として、日々の重圧の中、安定したパフォーマンスを出し続けるために自分で試みている心の整理術のようなものが記されている。

心は鍛えるものではなく、磨くものでもなく、「整えるもの」という観点のもと書かれた本書は、どこか大らかで、どこかマイペースである。しかし、真摯に物事に向き合う姿勢の大事さが丁寧に記され、読むたびに新鮮な気持ちになれる。これからも大きな分岐点や挑戦の前には本書を再読し、心を整えることから始めたいと思います(本書の印税は全額ユニセフを通じて東日本大震災に寄付されるそうなので、復興支援の一環だと思いついてみてください)。

※次号の「ひとりごと」は大森桃子さんです。お楽しみに。

一木会ご報告 (原則、毎月第一木曜日に COMS HOUSE で行う勉強会・交流会です)

★第204回一木会 (2012. 8. 2)

としまち研東日本復興支援委員会の一員として、東松島市での被災者意向確認の個別面談員の活動に参加いただいた、神奈川傾聴塾指導者の大森桃子氏に「傾聴について」というテーマでお話をしてもらいました。



参加者に会話の演技をしてもらったり、隣の席の人と話し合いをしたり、まさに参加型の講義でした。「傾聴」の重要性がよくわかった一木会でした。

★第205回一木会 (2012. 9. 6)

有限会社まち処計画室の小口優子氏に、合意形成の手法におけるファシリテーターの役割と実践についてお話してもらい、「公園でのペットの散歩の利用」についてグループごとに解決策を話し合うワークショップを体験しました。



進行役として、参加者の立場に立って多様な意見を引き出すファシリテーターの役割の重要さと難しさを実感することができました。

今後の一木会予定

★10月(10月4日)【第206回一木会】

高見澤邦郎先生・佐藤俊一氏『復興協議会への支援をめぐるーいわき市豊間地区の経験からー』

★11月(11月1日)【第207回一木会】

齊藤広子先生『(仮題) 日本型 HOA (ホーム・オーナー・アソシエーション) について』

福島県いわき市豊間地区の復興をめざして

いわき市豊間地区の仮設復興サポートセンターの建設に際して、復興協議会に対し、としまち研から寄付をさせていただきましたところ、としまち研会員である高見澤先生から、報告とお礼の手紙をいただきました。



塩屋崎灯台の足元 (映画「喜びも悲しみも幾歳月」や美空ひばりの「みだれ髪」で有名)



ワークショップの様子

福島県は原発被害への注目が高いため津波被害エリアの報道は少なく、忘れられている気配があります。豊間はいわき市で最も被害が大きい地区です(津波で85名が亡くなり、約620戸のうち430戸が全壊)。地元各団体による復興協議会が昨年8月に設立され、地区住民が熱心に復興まちづくりに取り組んでいます(協議会のブログ: <http://furusatotoyoma.blogspot.jp/>をご覧ください)。

同じ大学を卒業して都市や住宅の仕事をしている仲間を中心に、ボランティアでこの豊間地区の支援を続けています。美しい海岸線、灯台の見える当地区が、いわき市被災地復興の先導的役割を果たせればと考えるところです。

9月からは、今後の暮らしを見据えていかなる復興があるべきかを、住民自身が考えるワークショップを開始しました。年内にその成果を市にも渡して復興公営住宅建設や区画整理の計画に反映してもらえればと思っています。



立派に完成した事務所 後方は9月完成予定の集会所

終わりになりますが、拠点となる仮設事務所(8坪)と仮設復興サポートセンター(集会所兼用、14坪)の建設に際しては、としまち研から多大の拠金をいただきました。

協議会の鈴木徳夫会長からも呉々もお礼をと言付かっていること、申し添えます。

(都立大学名誉教授・高見澤邦郎、NPO美しい街住まい倶楽部理事長・佐藤俊一)



地元の方と支援者で復興協議会の事務所づくり

奥澤コーポラティブハウス、躯体見学会とコンセントチェック会

8月に入り、躯体見学会とコンセントチェック会を体験しました。

ほぼスケルトン状態の区画を見られるという貴重な機会です。ヘルメットと軍手を着けて、アトラクションのような仮設エレベータに乗って現場へ入るのはワクワクしました。そして2年近く図面上でだけ見てきた間取りが「本当に出来ている!」ということに感動しました。

素人がちょっと見ただけでは細かいことなどわかりませんが、大きな梁や断熱材の厚さは頼もしく感じました。設計士さんには「小さく感じられると思いますが、がっかりしないでくださいね。」と言われましたが、本当にそうでした。小さな空間を大きく生かすのはインテリアと住まい方次第なのですね。

更に2週間後にコンセントチェック会。設計段階で電化製品の使い勝手を考えてコンセント位置を決めますが、微調整が可能です。普通は見えない壁の中の電気配線が見えてしまうので、今度は妙に細かい点が気になりもしましたが、実際に住んでみないとわからない点も多く、あとは年末の竣工を待つばかりです。

(奥澤コーポラティブハウス建設組合 秋濱めぐみ)



躯体内部の様子

根津シティタワー 防災対策の検討

としまち研が第一次大規模改修工事のコンサルティングや管理規約等の改定のお手伝いで携わってきた根津シティタワー(74戸の分譲マンション)では、昨年3.11の東日本大震災の経験をふまえて、今年5月より防災対策の検討が進められています。



建物の隅々まで確認しました

これまで、住民の有志十数名を中心に、防災対策に関するアンケートの実施、備蓄物資や機材の検討、本所防災館で地震や応急手当等の体験、マンションの施設や設備の見学など、精力的な活動が行われています。また、今後「防災マニュアル」を作成するというので、としまち研もお手伝いさせていただく予定です。しっかり勉強し、コーポラティブハウス等の管理組合や建設組合などへ防災対策の検討を呼びかけていけるよう取り組んでいきたいと思っています。(としまち研事務局長 関真弓)



みんなでマンションの設備を見学

ロイアル一番町の大規模修繕工事が始まりました

9月10日(月)にロイアル一番町(千代田区)で大規模修繕工事の第一歩となる足場組立工事が始まりました。

昨年9月にとしまち研が大規模修繕コンサルタント業務を受託してから、ちょうど1年になります。

昨年の10月に建物診断、今年の1月には「建物診断報告会」と管理組合員向けの現場見学会である「みんなで建物診断」を行い、4月から工事会社の募集、7月に選定ヒアリング等を経て、工事会社は、建物管理をしている大成有楽不動産(株)に決定しました。



エントランスに設置された工事案内掲示板

その間、理事の皆さんは、住民の皆さんに喜ばれる大規模修繕をしようと、熱心に課題に取り組みされてこられました。

長かった一年ですが、大規模修繕はこれからの工事が本番です。としまち研も、皆さんに喜んでいただける大規模修繕となるよう、しっかり工事監理をしたいと思っています。(としまち研理事 市野恵司)



組上がった足場